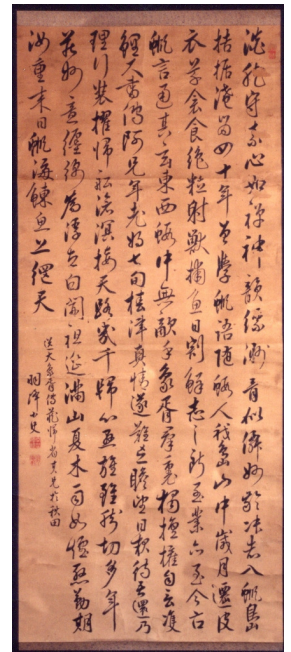


加賀家文書歴史講座のお知らせ！

加賀家が残した幕末蝦夷地の
会津藩関係資料についてご紹介します。

- 日 時 平成26年2月8日(土)
午前10時～11時30分
- 場 所 附属施設加賀家文書館
- 内 容 「加賀家文書に含まれる会津藩関係資料」
別海町郷土資料館 主査 石渡 一人
- 申込み 2月7日(金)までに電話・FAX・メールの
いずれかでお名前・電話番号をお知らせ下さい。
当日参加も可能。

右の掛軸は、会津藩標津代官南摩綱紀が、
加賀伝蔵が、故郷秋田県八森に帰郷する時
に、贈ったものです。



ウィンタースクール

「化石のレプリカを作ろう」の実施しました。

1月7日(火)、8日(水)主催事業ウィンタースクールを開催しました。

野付半島沖で発見されたマンモスゾウ臼歯化石と所蔵資料のアンモナイトの化石レプリカを作りました。

シリコン型に石膏を流し、型からはずし整形作業を行いました。時間の都合上、着色まで出来た参加者は少なかったですが、精巧なレプリカを作ることが出来ました。



シリーズ「近世の別海を探る 野付～その5～」

ノツケトウ

現在の地名標記は、野付湾となります。近世史料の標記は、「ノツケトウ」「ノツケ湖」「トホロ海」などがあります。

○地名の由来

アイヌ語で「沼」を「トウ」と言い、野付半島の内湾の「沼」「湖」「海」「入江」という意味合いが考えられます。「トホロ海」は、トホロ（当幌川）が流れ出る海ということで記述されたものと思われます。

○地勢

各時代とも沼、海という表記ですが、鯨、鮭、蝶鮫などが捕れたことがわかります。

●幕府直轄時代 寛政 11 年（1799）～文政 3 年（1820）

- ・「ノツケトウ 泊」『東蝦夷地各場所様子大概書』松前藩 文化 5 年（1808）
- ・「ノツケトウ 沼」『東行漫筆』荒井保恵 文化 6 年（1809）

●松前藩復領時代 文政 4 年（1821）～安政元年（1854）

・「但 口幅式丁程 深壑尺程 是姿丸き形し入江沼二而周辺凡九里程鮮●魚鮭蝶鮫入漁場壺ヶ所御座候」『嘉永七年七月水野正左衛門様差上書面写巻冊 青山弥惣右衛門様差上書面写巻冊』支配人善吉 嘉永 7 年（1854）

●幕府再直轄時代 安政 2 年（1855）～慶応 3 年（1867）

- ・「ノツケトウ …ノツケの内海なり…」『協和私役』窪田子蔵 安政 3 年（1856）
- ・「ノツケトウ …夷言沿ヲ「トウ」ト呼ブ…」『勸国録』石川和助 安政 4 年（1857）



マンモスゾウのミニチュアを展示しました。

当館所蔵資料の代表的なものといえば、3個のマンモスゾウ臼歯化石が上げられます。いずれも野付半島の沖で発見されており、ウニ・ホタテ漁の網に掛かり、地元の漁業者によって引き上げられています。

臼歯化石は、展示室で解説パネルとともに常設展示されていますが、実際に生きている動物ではないので、そのイメージを想像することは、難しいと思います。

この度、1/30 スケールでマンモスゾウのミニチュアを作成し臼歯化石と共に展示しました。小さいものですがリアリティがあり見学者にとってマンモスゾウが、なじみ深いものになってくれればと思います。



別海町郷土資料館だより No.174

発行日 平成26年1月8日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

明けましておめでとうございます。本年も郷土資料館をよろしくお願ひします。雪も少なく暖かい新年で何よりです。さて、冬休み事業のウィンタースクールも終了し、子どもたちは真剣に話を聞いてくれたり、一生懸命レプリカ作りをしてくれました。良い資料とそこから展開する事業を今後も実施して行きたいと思ひます。(担当 KI)